



小泉 あつし 報

香川県議会議員・無所属・議会/県政報告

2024
- 第五号 -

定例会を終えて

みなさまこんにちは。

この夏は高校野球の観戦に行ってきました。二回戦で惜しくも敗退となりましたが、小豆島中央高校の善戦に勇気もらいました。

県議会の仕事として、行政のチェック機能があります。私が県の施策についてのチェック機能を果たす上で重要視しているのが、

「現場の声を聞いているかどうか」という点です。

県の事業の中では、よく現場の声を聞いて練られたと感じるものもありますし、単に過去の事業（予算）を踏襲しているだけでアップデートされてるのか疑問になることもあります。

現場とは、最終的なユーザー（消費者）そしてサービスを提供するスタッフのことだと思っています。

トップダウンで「この施策がいい！」と思っても、90万人の県民一人ひとりにどれだけ突き刺さっているか疑問がありますし、3000人の職員の気持ちを動かすには無理があります。

そこで、本定例会では一般質問にあたり、最前線で活動される事業者、行政職員や住民の方々の方々の声を聞き、それを素材として県の担当者と話し合い、知事に質問・要望しました。現場の声には、県の施策を実際に運用する中で最前線の意見もあります。

県の施策も現場での運用を想定して実施されるのですが、現場には想像してもしきれない部分での困りごとがあります。また、現場で日々変化するニーズに対応するためのアップデートは、デスクでは気づかない場合もあります。県の事業が成功するか否かは、ポトムアップの要素をどれだけ含むかによって思っています。

この香川が観光地として、移住地として選ばれ、にぎわい、暮らしやすいまちになることを期待して、県議会に要望してまいります。

令和6年6月議会の小泉あつしの質問（1~4 一般質問 _ 5・6 文教厚生委員会）

- 1_ オリーブの振興について
- 2_ 小豆島で開催される全国醤油サミットについて
- 3_ 災害時の支援物資輸送の確保について
- 4_ 豊かな海づくりについて
- 5_ 障害者の就労における工賃向上の取組みについて
- 6_ 文化財の保存と活用について

●現在小泉あつしが所属する委員会
●文教厚生委員会
●県立アリートナ整備等に関する特別委員会

小泉あつしの質問

一般質問

1・オリーブの振興について

質問

歴史ある香川のオリーブとその研究について、次の3点について知事に伺います。

①新品種の苗木の安定供給と生産振興について
平成29年、日本独自の新品種「香オリ3号」、「香オリ5号」が品種登録出願されました。60年以上にわたり研究を続けた成果です。新品種の苗木の安定供給を図り、普及を促進する必要があると考えます。

②官能評価パネルについて、小豆オリーブ研究所では、オリーブオイルの品質を国際基準に沿って評価する「香川県オリーブオイル官能評価パネル」を設置し、オリーブオイルの官能評価を行っています。今後、パネルのメンバーをどう育成し、官能評価に取り組むのか。

③「かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度」について、この制度は、県独自で定めた品質評価基準に適合した製品であることを表示することによって、本県のオリーブ産業の振興に資するものとされています。世界最高のエキストラバージンオリーブオイルに対し、香川の「プレミアム」はより酸度が低く新鮮なオイルであることが証明されています。これらのことをさらに周知し、ブランド強化を図る必要があると考えます。

池田知事

新品種の苗木の安定供給については、県が一括して苗木を育成・管理し、令和2年度から5年度までの4年間で「香オリ3号」は985本、「香オリ5号」は1335本を県内生産者に配付しており、需要に応じた供給ができています。

今後も、計画的に新品種の普及を図っていきます。香川県オリーブオイル官能評価パネルについては、オリーブオイルに関する唯一の国際機関であるIOCから6年連続で公式官能評価パネルとして認定されています。現在、官能評価員の人数は必要な25名程度を維持できていますが、今後も安定的に人材の育成に努めます。

香川県産オリーブのブランド強化については、実需者向けには、6月24日に東京で開催される商品展示会に出展する予定です。また、消費者向けには、本年産のオイルが出揃う冬季に、消費拡大キャンペーンや県内百貨店におけるフェア等を行うことでPRしていきます。

2・小豆島で開催される全国醤油サミットについて

質問

香川県では、質の良い塩が豊富で、地理的な条件もあって醤油産業が発展しました。

なかでも小豆島が特出するのは、姿を消しつつある「木桶」が伝統的に使用され、現在も醸造に使用されていることです。木桶仕込みの醤油は、蔵元ごとに異なる複雑な味や香りにその特徴があり、高級品としてのイメージが世界でも定着しつつあります。この小豆島を舞台に、本年11月2日、3日の2日間「第10回全国醤油サミット」が開催されます。

醤油サミット2日目は、実際に木桶を使って醸造する醤油工場の見学や、木桶の製作実演などのイベントも行われる予定です。

本県が主催しないこうした取組みであっても、観光振興の観点からも、県としても積極的に発信していくべきと考えますが、知事のお考えをお聞かせください。

池田知事

地域で開催されるイベントについては、この全国醤油サミットを含め、県が主催しないイベントであっても、積極的に情報発信を行っており、今度ともその方針を進めます。例えば、国内に向けては、農村歌舞伎やちょうさ祭り、獅子舞をはじめ、さぬき市商店街での「さぬきパル」、こういったイベントについて、県でも情報発信することとしており、今後とも情報発信していきます。また、海外に向けては、日本古来の食文化などについても、外国人観光客に訴求力のあるコンテンツ等として、高松空港国際線が就航する国や地域を中心に、SNSを活用して情報発信していきます。

ご指摘の全国醤油サミットは、県も後援しており、醤油文化の歴史を持つ香川の魅力を感じてもらえる重要なイベントですので、国内外から多くの観光客に訪れていただく絶好の機会と捉え、県公式観光サイトや県産品ポータルサイト、SNSなどを活用し、例えばサミットで予定されている「木桶の製作実演」や「醤油蔵見学会」など、小豆島の木桶仕込み醤油の魅力や幅広く発信するよう準備をしたいと考えています。

3・災害時の支援助物資輸送の確保について

質問

元日に発生した能登半島地震では、集落の孤立が多発し、長期化しました。私自身、1月の4日間、能登半島の珠洲市、能登町にて、炊き出しや物資配布のため、ボランティア活動に参加してきました。現地では、通行できない道路が多く、寸断された道路から先の孤立集落へは徒歩で行き、被害状況の聞き取りや物資の配布をしておられる状況を目の当たりにしました。報道では、本県で災害時に孤立する可能性がある集落が190か所あることが分かっています。

また、本県の有人島24島では、南海トラフといった大規模災害時に香川県本土から孤立する可能性が高いと考えられます。本土から離島への救助や物資の運送をスムーズに行えるかどうかは離島に暮らす住民にとって生死に関わる重大な問題です。

孤立した離島における避難者の救助や物資輸送のために、海上輸送手段の確保と必要同時にヘリコプターの円滑な運用も不可欠となります。香川県地区小型船安全協会との協定に基づいた訓練において、昨年度には直島、一昨年度には男木島と、小型船による海上輸送訓練も実施しています。しかし、物資輸送の訓練は本県最大の有人島である小豆島では行われていない状況です。現在、海路や空路による離島への災害時の救助や支援助物資輸送の確保のために、どのような取組みをし、また、今後どのように取り組むお考えでしょうか。

池田知事

大規模災害発生時に、孤立した集落や離島における被災者の救助や物資の輸送を円滑に行うため、海路や空路を利用した輸送体制を整えておくことは重要であると考えています。

まず、被災者の救助については防災ヘリの活用が有効であると考え、救助訓練などの実践的な訓練を行っています。

物資輸送については、海路による対応が中心になると考え、島しょ部への物資輸送訓練を令和3年度以降毎年度実施して、今後ともこの訓練を着実に実施していきたいと考えています。今後、航路再開後の島しょ部への物資輸送がより円滑に行えるよう、県と協定を締結している香川県トラック協会や香川県旅客船協会等との間で、災害時を想定した連携関係づくりをさらに進めます。私としては、離島は地理的条件がより厳しいことから、特に留意する必要があると考えています。

4・豊かな海づくりについて

質問

小豆島の漁師さんから聞いた話ですが、漁をして生計を立てている漁師は池田で2軒、土庄でも5軒ほど。獲れるのは、放流しているヒラメ等で、それも年々量が少なくなり、そこに燃料代などの値上がりで追い打ちをかけています。知事は、アサリの漁獲量拡大のための、フルボ酸鉄シリカ資材に着目した研究をご存知でしょうか。

フルボ酸鉄シリカの活用については令和元年9月の一般質問で取り上げられており、この際、当時の知事から、「フルボ酸鉄シリカの設置については、中略、引き続き詳細な情報収集や香川大学との共同研究を進めてまいります。」と答弁されました。

過去の答弁を踏まえ、県としてどのように取り組まれたのか、また、今後取り組む予定があるのか、知事の認識を教えてください。また、海の環境改善に対する知事の意気込みを併せてお伺いをいたします。

環境森林部長

本県のアサリ漁獲高は、近年ほぼゼロで、全国的にもピーク時から大幅に減少しています。減少については、海水温の上昇、埋立てによる生息地の減少、ナルトビエイやクロダイによる食害など、さまざまな要因が考えられます。ご指摘の「フルボ酸鉄シリカ資材」は、福岡大学においてアサリの生息量が回復する結果が得られていることは承知しています。県では、香川大学と共同で、アサリ資源回復に向けた取組みに関する研究を進めており、志度湾等における研究など、今後も継続することとしています。県としては、漁業者などの意見も聞きながら、藻場の造成や保全、漁場環境の改善、種苗の安定供給など、瀬戸内海を豊かな海にしていくなめの取組みをこれまで以上に進めていきます。

・文教厚生委員会

5・障害者の就労における工賃向上の取組みについて

質問

障害者総合支援法では、就労移行支援事業所や小規模作業所等からの優先調達が求められている。県庁の優先調達の実績と、実績を伸ばしていくための取組について伺う。

障害福祉課長

県庁の優先調達は、着実に実績を伸ばしている。調達実績の増加に向けては、本庁・出先に「ハートフル推進員」を選定し、説明会を毎年開催している。

再質問

本県の平均工賃は、B型で17371円（全国平均より340円多い）、A型で78019円（同532円少ない）となっているが、工賃の向上のための取組について伺う。

障害福祉課長

県では、共同受注の窓口を設置し、複数の障害福祉サービス事業所にあっせん・仲介することで、1つの施設では対応できない業務量を受注できるようにしている。

また、昨年度から新たに、スーパーバイザー1名を同協議会に配置し、請負単価の値上げなど、工賃向上に向けた支援体制の強化を図っている。

要望

外部の知見を入れないというスタンスの事業所もあるが、連携することで新たな取組みや知見を得ることができ、工賃向上や障害者の自立につながると思う。是非、そうした取組みを今後も続けていただきたい。

6・文化財の保存と活用について

質問

「文化財保存活用地域計画」を認定した市区町村は全国で139市町、香川県では8市9町のうち小豆島町のみが作成済みである。

企業版ふるさと納税の取組みも含めて、他の市町での進捗状況、県としての関与の具体的な事例について伺う。

教育長

県では、今年度から企業版ふるさと納税「かがわの文化財保全・心縁プロジェクト」を立ち上げ、18の保存修理事業に寄附を募っており、地域づくりに活かしていきたいと考えている。地域計画は、県内では、唯一、小豆島町が作成しており、現在、三豊市において基礎調査、その他は、作成に未だ着手できていない状況にある。

要望

計画の作成について、補助金も含めて、積極的に横展開していただきたい。

再質問

令和6年度事業の「ふるさと芸能わっしょいしよ事業費補助金」は、県指定文化財が対象になっている。国指定文化財に対しても補助金の対象とすることで、県にとってより価値のある文化財の保全を図ることになると考えるが、この点に対してお考えを伺う。

教育長

国に対して国庫補助事業の下限金額の見直しなど、地方にとって使いやすい制度となるように要望していくことについて、まずは検討してまいります。

要望

数万円規模の補助金だが、それでも文化財の保全等のために役に立っていたという声を聞いており、下限額を下げるといった要望を進めていただければ幸いです。

再質問

災害発生時の行動によって、これまで多くの文化財が救われているが、香川県でも地域住民を視野に入れた「災害時文化財対応マニュアル」を作成し、地域の人々と共有することが重要と考えているが、その作成状況について伺う。

生涯学習・文化財課長

現在、災害時に県・市町・所有者等が行う業務の流れなどを整理したマニュアルの素案を作成しており、今後、災害の内容や規模、場所といった多様な状況に応じた実践的な「文化財等災害対応マニュアル」を整えていく必要があると考えている。

要望

「文化財保存活用地域計画」の作成も含め、「文化財等災害対応マニュアル」の策定を進めていただきたい。作成を通じて、子ども達も文化財の実態を把握するとともに、文化財を知ることになり、愛着をもってもらうという取組みも含まれている。

*文字数の関係で一部を抜粋・要約して掲載しています。全文はホームページにて公開いたしますので、より詳しくご覧になりたい方はぜひホームページをご確認ください。



県議会議ってどんなところ？

- 意外と知らない県議・議会・各委員会の仕事を少しだけご紹介します -



現在、小泉さんの所属している、文教厚生委員会って
どんなことをするところなんですか？

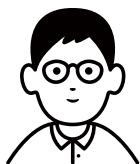
文教厚生委員会は4つある常任委員会の1つで、健康福祉部、
病院局、教育委員会が関わる事業について審議するところです
福祉や介護、医療、健康づくり、子育て支援、教育などが該当
します。

文教厚生委員会で今年度、特に力を入れている
取り組みや、話し合われていることなどはありますか？



今年度は、少子化対策、幼児教育の充実をテーマとして、さまざまな施
設に視察に行きました。宇多津町の多世代交流拠点施設、高松の公立と
私立の幼保小連携の現場や、多様な機能を備えたワンストップサービス
を実現している渋谷区こどもまんなか政策の現場、

こどもの主体性を大切にする横浜の幼保園、0歳から15歳までの一貫教育を
実践し、さまざまな方面から児童の多様性を受け入れる環境を作っている岐
阜県北方町の取り組みなど、先進的な取り組みをするたくさんの現場を視察
で訪れることができました。



サンポート高松に新しい県立アリーナが完成間近ですが
小泉さんの所属する県立アリーナ整備等に関わる特別委員会
ではどんな事を話しあっているのですか？

委員会ではアリーナの整備にかかる予算、指定管理、オープニングイ
ベントについて審議されています。
指定管理者が、雇用職員の確保や人材育成、警備清掃等の業務委託契
約締結等の管理運営に必要な体制を整備します

開館前後は、一人でも多くの皆様に県立アリーナへお越しいた
だく機会を提供するため、様々なイベントを開催します。



*HPや事務所、報告会などで、ぜひ皆さんのお声を聞かせてください！！

小泉あつし事務所のご案内

草壁にある小泉あつし事務所は住民相談、県議の仕事の説明、
住民の憩いの場として開放しています。
また定期的に報告会、住民相談会なども行っています。
活動報告などの資料もあるので、県議の仕事が気になる方、
ご意見などある方、どなたでもお気軽にお越しください。
人々が集まる場所になれるよう、温かい空間を作っていけたらと思います。

小泉あつし事務所

〒761-4432 香川県小豆郡小豆島町草壁本町1053-3

TEL : 070-9229-5202 開所日：月・水・金 9:30~12:30



ぜひお立ち寄りください!



小泉あつし プロフィール

昭和57年 9月20日京都府京都市生まれ
平成13年 京都府洛北高校 卒業
平成18年 立命館大学法学部 卒業
平成24年 青山学院大学大学院 法学研究科修了
平成25年 障害福祉サービスに5年間従事
平成29年 小豆島へ家族で移住
平成30年 あすなろの家 職業指導員、
せいけんじこども園 保育士
令和2年 児童福祉サービス
アースハーモニー管理者
令和5年 香川県議会議員 初当選

趣味：DIY、登山、家庭菜園、断食、英会話、ピアノ
ギター、SUP、読書、子どもと遊ぶこと、カラオケ
好きな言葉：上善は水の如し

小泉あつし公式 HP はこちらから



koizumiatsushi.com